

馬家塞百人

13
2946
128



へ13
2946
128

寛政十二年甲午

荒尾文庫



五

禍福門なり唯人の招く處に來る夫天の作の孽
 百の錢も猶活べし自作る孽ハ又隨意行
 なるべ貧福吉凶喜怒哀樂人間萬事塞
 馬作者の名小しお千里馬琴小あすといへ
 若觀る人伯樂あぶ驢耳彈琴の譬も洩
 彼管仲が衣の雪老馬乃らびく勸善懲惡
 走らぬ筆の竹馬些三乗が來て序

寛政十二年のえ核のすく
春駒のめでとく日

曲亭馬琴識

引小舟をせしむ
 てむつこねては
 ゐんのちふれん
 されとるまか
 くのちとんを
 せとくこら
 のうとりをな

舟の圃の圃とま
 舟の人まのの
 ちくやあれの
 をとんとま
 のうがをを

舟の圃の圃とま
 舟の人まのの
 ちくやあれの
 をとんとま
 のうがをを



福

馬

太公望といふ人
 天のまを
 川

舟の圃の圃とま
 舟の人まのの
 ちくやあれの
 をとんとま
 のうがをを





人としをすすむはしむの世は
 けいをこころわいのもろ
 きをこころいふまじし入
 ゆいこころをそとんと
 くれそすけけと
 五十町とてゆ

とんすとしのせ
 さのまのまのま

マーシューのあつちの
 いちあがのびあつちの
 まれま

けいさのあつちの
 さいさのあつちの
 ついてあつちの
 まれま



けいさのあつちの
 さいさのあつちの
 ついてあつちの
 まれま

マーシューのあつちの
 いちあがのびあつちの
 まれま

マーシューのあつちの
 いちあがのびあつちの
 まれま

けりてゑるまゝに
 こゝろのあはれと
 むすんでゑるまゝに
 ゑんせつらんこれ
 ゑんせつらんこれ
 ひよひらして
 ひよひらして
 けりてゑるまゝに
 こゝろのあはれと
 むすんでゑるまゝに
 ゑんせつらんこれ
 ゑんせつらんこれ
 ひよひらして
 ひよひらして



雨化しら小
 ゑんせつらんこれ
 ゑんせつらんこれ
 ひよひらして
 ひよひらして

けりてゑるまゝに
 こゝろのあはれと
 むすんでゑるまゝに
 ゑんせつらんこれ
 ゑんせつらんこれ
 ひよひらして
 ひよひらして



けりてゑるまゝに
 こゝろのあはれと
 むすんでゑるまゝに
 ゑんせつらんこれ
 ゑんせつらんこれ
 ひよひらして
 ひよひらして

けりてゑるまゝに
 こゝろのあはれと
 むすんでゑるまゝに
 ゑんせつらんこれ
 ゑんせつらんこれ
 ひよひらして
 ひよひらして



此の馬は...
 神の御馬...
 此の馬は...
 神の御馬...
 此の馬は...
 神の御馬...



此の神は...
 神の御馬...
 此の神は...
 神の御馬...
 此の神は...
 神の御馬...

此の神は...
 神の御馬...
 此の神は...
 神の御馬...
 此の神は...
 神の御馬...

